

事業結果

遺伝子組み換え作物が世界的に増えてきている今、遺伝子組み換え作物が広がっていった背景や環境に与える影響などについて考える講座を開催しました。

食と環境講座 「遺伝子組み換えの今」



日時 11月7日(金) 午後1時～3時30分
会場 環境情報センター 活動室
参加者 14人
講師 天笠啓祐さん(ジャーナリスト、市民バイオテクノロジー情報室代表)
内容 グループワーク「食用油の原材料と遺伝子組み換え表示の有無」
天笠さんのお話し「遺伝子組み換え(GM)食品・作物のいま」



グループワーク

「食用油の原材料と遺伝子組み換え表示の有無」

参加者のみなさんに自宅にある食用油について、原材料と遺伝子組み換え表示の有無について調べてきてもらいました。その結果を話し合ったのですが、結果は…

ごま、菜種、大豆などをいろいろな原材料の食用油を20種類以上の商品を調べたところ、表示があったのは2つ。「遺伝子組み換え不分別」「遺伝子組み換えしていない」と表示されていました。



天笠さんのコメント

「今、遺伝子組み換えで作られている作物は“大豆”“菜種”“とうもろこし”“綿”の4種ですが、豆腐や納豆、味噌などと違い食用油は『遺伝子組み換え』の表示義務がありません。日本の自給率や輸入国の割合、その国の遺伝子組み換え作物の作付け割合から考えても、その4種を原材料にしている食用油で表示のないものや不分別と書かれているものは全商品に遺伝子組み換え作物が使われているでしょう。」

天笠さんのお話し「遺伝子組み換え(GM)食品・作物のいま」



講師：天笠啓祐さん

国際環境問題を専門とするジャーナリストの天笠啓祐さんから遺伝子組み換え作物や食品について次のようなことをわかりやすく教えてもらいました。

日本は、商業用遺伝子組み換え作物は栽培されていないが、世界最大の輸入国
遺伝子組み換え作物の種類は4種、性質は除草剤耐性・殺虫性の2種
欧州では全商品が混入率0.9%以上は表示する

日本では表示対象外の食品があり、混入率5%未満は「遺伝子組み換えでない」の表示が可能

遺伝子組み換え作物の種子が既存の種と交雑しており、生態系・生物多様性に脅威もたらしている
自治体独自の規制が広がっている
世界中で遺伝子組み換え作物を作らない地域が広がっている



ヨーロッパと日本・米国の食に対する考え方の違いや遺伝子組み換え作物が気付かずに食卓にのぼっていることなどを伺い、遺伝子組み換え食品・作物を選択するかしないかも含めて、“食生活”について改めて考えるきっかけになりました。

